

授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学終了報告書

所属(本学)	大学院 総合理工学研究科 人間環境システム専攻		
帰国時の学年	修士 3 年		
留学先国	スイス	留学先大学	スイス連邦工科大学チューリッヒ校
留学期間	2016 年 9 月 1 日～2017 年 7 月 31 日		

① 留学先大学(機関)の概略

スイス連邦工科大学チューリッヒ校(ETH Zürich)

スイスの国立大学で理系総合大学。ヨーロッパで最もランキングの高い大学の一つのため、世界中から留学生がやってくる。学生数はおよそ 2 万人。春夏と秋冬の 2 セメスター制。

② 留学前の準備

就職活動や修了までの計画について

建築学部の設計・デザイン系の研究室に所属する学生の中には修士 4 年で卒業する計画で留学を考える人が比較的多い。自分もその先輩方にならって留学を計画した。

(一般的な M4 卒業生の計画)

修士 2 年の後期から留学を開始 → 1 年間留学後、修士 3 年の後期開始前に帰国 →

修士 3 年後期、12 月頃から就職活動 → 修士 4 年いっぱい論文作成 → 卒業

建築デザイン系の企業の多くが経団連の指針に準じていないため、就活期間が変更前のまになっている。他の分野で就活を考えている人は注意が必要。

留学情報の入手方法

先輩のつてを頼って同じ大学、学科に留学している人の連絡先を教えてください、直接メールやラインなどで必要な時に質問をした。現地の事情を知っている人に直接聞くのが一番正確で頼りになる。

ビザの取得方法

留学決定後に案内があるが、ETH が用意した交換留学生用のポータルで留学前に必要な書類の提出をする。そこで大学とのやりとりはほぼ完結している。ETH で交換留学をする場合、現地到着後に主な手続きの案内を大学がしてくれるため、学生は特に準備する必要がない。

住居の探し方

チューリッヒに留学する学生のための住居を管理している、WOKO というオフィスのウェブサイトから探すことができる。初めてチューリッヒに留学する学生の場合は、事前に登録すれば WOKO が直接住居を決定してくれる。ただし、早めに登録しないと人気の寮はすぐに埋まるので注意が必要。もし逃した場合も、そのウェブサイトに空き部屋情報がでているため、部屋を探す手がかりになる。

③ 留学中の勉学・研究

研究室に所属しなかったため、授業登録は 1 年間の 2 セメスターとも行った。学部生用の授業はほとんどドイツ語で開講されるため、基本的には修士用の授業を履修した。留学生の場合は学部・修士分け隔てなく履修できる。

分野のせいか、修士の授業は幅が広く、たくさんの機会が用意されているように感じた。例えば、絵を描く授業、写真の授業、設計用のソフトウェアのレクチャーや 3D モデリングの授業などさまざまある。

履修科目

・16/17 秋冬セメスター

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| -Architectural Design V-IX | -Seminarweek |
| -Urban Mutations on the Edge | -Architecture VII |

このセメスターは設計課題の授業(Architectural Design)に集中するため、座学の授業はほとんど履修しなかった。Urban Mutations と Architecture VII はレクチャーを受けるだけの授業。Seminarweek は ETH 建築学科の名物授業で、各教授がそれぞれのテーマ毎に企画する1週間の旅行に参加できる。今期はスペイン人の教授が企画した、スペインの特徴的なランドスケープを巡る授業に参加した。

・17 春夏セメスター

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| -Architectural Design V-IX | -Seminarweek |
| -Serendipity: Ice, Light, Void | -Urban Mutations on the Edge |

後期はよりテーマを絞って授業を履修した。Serendipity は、一泊二日で山の上の氷河まで行き、白黒フィルムカメラで撮影した写真と、その場で録音した場所の音を組み合わせる作品にする授業。セメスター毎にテーマが変わるが、音や映像とランドスケープが主なテーマ。Seminarweek も Serendipity と同じ教授のツアーに参加。島の様々な町や特徴的な自然を巡って音を採集する。採集した音について議論したり、再生してジャムセッションしたりしながら、空間を音で捉える試みの授業だった。春夏のセメスターは、上記以外にも履修登録せずに受講だけした授業が二つある。

④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

授業のない長期休暇の時期には、積極的に旅行に出かけた。主にヨーロッパの建築作品を見てまわるのが目的で、合計で15カ国ほどをまわることができた。

寮にはたまたま卓球台が備え付けられていて、寮でできた友人と時々卓球をしたり、別な友人とは大学の音楽室を借りてギターを演奏したりした。

⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

自分の興味があつた、ランドスケープという分野の視野を広げることが充分達成できたとおもう。スペイン旅行の授業ではこれまで見たことのない力強いランドスケープを見ることができたし、後期の授業では音をつかっていた授業に触れ、新しい視点から同じ分野を見ることができた。

また、語学面での成長も、休暇中の旅行で実感することができた。旅行先で様々な場面や人に出会う中でも、自由にコミュニケーションをとることができた。

⑥ 留学費用

渡航費:往復で15万円程度

生活費:月6万円前後

住居費:545スイスフラン(6万円前後)

保険料:月額65スイスフラン(7500円程度)

奨学金:トビタテ留学 JAPAN 月額16万円支給

⑦ 留学先での住居

寮に滞在した。探し方は前述のとおり。部屋は廊下に個室がついているだけのいわゆる学生寮タイプ。部屋には洗面台のみがあり、トイレ・シャワーは各階に2・3ヶ所ずつ。キッチンが1階のみで、業務用の厨房のようになっていた。毎週業者の清掃が入り、キッチン以外は基本的に清潔だった。

⑧ 留学先での語学状況

チューリッヒの人は基本的に英語が話せるので、日常生活であれば英語が話せれば問題ない。ただ、学生達はやはりドイツ語が母国語なので、彼らとより深く関わりたいならドイツ語を学んでから行くことを強くお勧めする。履修できる授業の幅も広がるので、大変だが利点はとても多い。

初めは会話にとっても苦労した。会話のスピードや英語と日本語の言い回しの違いなど、慣れるまでに数ヶ月要した。自分の言いたいことが言えなかったり、言われたことがわからないのは結構なストレスなので、事前に会話に慣れておくことをおすすめする。

⑨ 単位認定(互換)、在学期間

単位互換の申請を行う予定はない。在学期間は就職活動期間との兼ね合いから、1年半延長する。

⑩ 就職活動

留学先で履修した授業、設計課題で作成した作品を自身のポートフォリオにまとめて就職活動に活かす予定である。

⑪ 留学先で困ったこと(もしあれば)

特になし。

⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

これから留学する人には、とにかく視野を広くもってほしいと思う。ヨーロッパの現地の学生達は、想像しているよりもずっと自由に物事を考えていて、彼等からたくさんの刺激をもらえる。大学も柔軟で、いろいろな場やチャンスを用意しているはず。それらをうまく取り入れて、授業や課外活動にも積極的に挑戦することができれば、留学が何倍にも楽しくなるはず。